

日本菌根菌財団 2020 年度事業報告概要

2020 年度の実施事業の報告は下記のとおりです。

1 普及啓発活動

(1) 財団機関誌による会員への情報提供

2020 年 10 月に「菌根菌ジャーナル Vol.2」を発行し 500 部印刷しました。会員、財団活動に協力くださる方々、掛川市役所、掛川市農業協同組合、国会図書館、静岡県内各市中央図書館等へ配布しました。

(2) ホームページや LINE による会員と一般の方々への随時の情報発信

ホームページをご覧になって、様々な方々からのご質問等をいただき、会員勧誘にもつなげました。また、新たに LINE に会員グループを開設し、情報発信に努めました。

(3) 一般の方々への菌根菌の P R

COVID-19(新型コロナウイルス)のまん延により、思ったような普及・P R 活動は出来ませんでした。しかし、様々な機会をとらえて、各理事等それぞれが一般の方々への周知、P R を図りました。

2 農林業等への適正利用

(1) 法人・個人会員への農業生産指導

① 掛川市内の農業生産法人と契約し、ネギ、サツマイモの生産指導を行いました。

また、会員の農家の方々に水稻、イチゴなどを菌根菌を利用した共同研究を行いました。

② 会員の方々からの依頼により、土壌中の菌根菌調査等の土壌診断を行いアドバイスを行いました。無農薬栽培をしながらも、多くの土壌で菌根菌の土壌胞子数が少ない現状でありました。

(2) 農業生産団体への菌根菌利活用の農業指導

オーガニック栽培を進めている農事組合法人で、菌根菌を利用した農法に転換するため、農業協同組合と連携し有機 JAS 認証の手続きを進めました。

(3) 外部資金の活用による菌根菌の応用利用の推進

中部電力(株)様のご支援をいただき、「クロマツにおける菌根菌活用植生修復及びショウロ生産事業」※に着手しました。

※菌根菌を活用してクロマツを育成し、菌根菌 (AMF とショウロ菌) に感染したクロマツを海岸防災林に定植することで松枯れを抑制するとともに、クロマツ林においてショウロ生産に結び付けていくことで農業振興をも目的とするもので、中部電力(株)様のご支援をいただき事業化をいたしました。2020 年度では、400 本のクロマツに AMF とショウロ菌を接種し灌水等の管理をしています。

(4) 民間企業との共同・連携による事業推進

① (株)フローラ様と連携し、「菌根菌 HB-101」を製造し(株)フローラ様の顧客の方々にご使用いただきました。

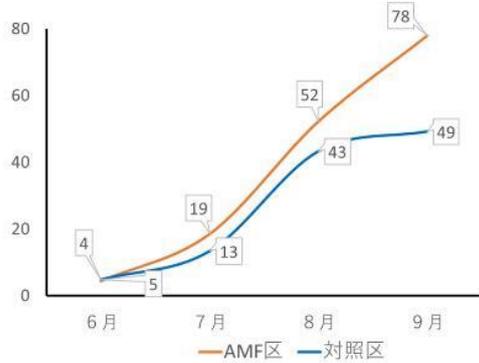
② (一財)アグリオーブソノバーション機構様のサポーター会員に登録し、静岡県内の農業関係企業等との連携を進める場をいただきました。

3 研究者等の育成

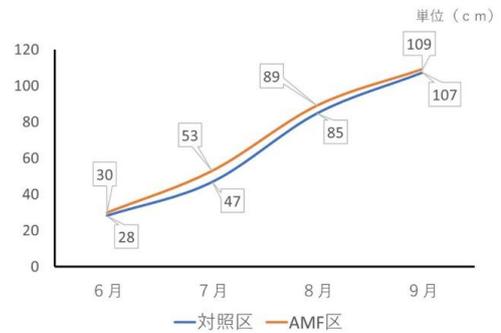
(1) 高等学校における学生への指導助成

静岡県立田方農業高等学校において、アーバスキュラー菌根菌によるイネ・チャの生長比較実験及び成分の調査に助成を行い、高校生の菌根菌に対する理解が深まりました。

その結果、下図に示す通り、イネではAMF区で分けつ数が著しく高まりました。またチャでは、葉数、樹高ともに、対照（無接種）区と比べて、AMF区の方が良好になりました。



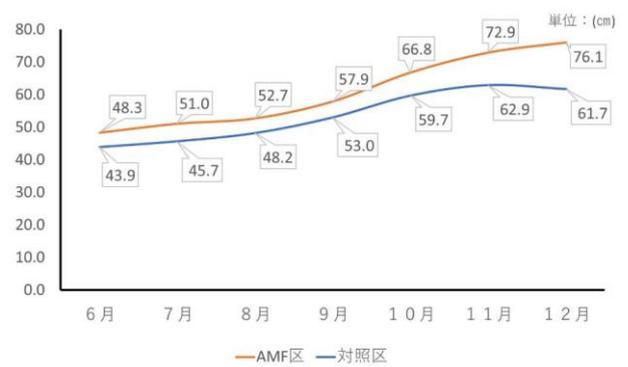
イネの分けつ調査結果



イネの草丈調査結果



やぶきた葉数結果



やぶきた樹高結果



イネの観察、左 AMF 区、右対照区



チャの葉数、樹高調査